

【 会員投稿 】

“川柳を創って生活に潤いを”楽しんでいきます

【 その1 】

ペンネーム:川柳創駄郎

最近、携帯電話の普及率向上に伴い、川柳が流行っているようです。五、七、五の文字の中に自分の考え伝えたい事をメールで手軽に発信出来ることが受けているようです。長い会社生活から開放され、世間でよく言う悠悠自適？の生活に入った。金がかからずひま防止、生活に張り合いと潤いと、川柳を始めました。始めてみると結構面白く楽しんでいきます、まずは駄作を紹介します。

最初に、「名月や池をめぐりて夜(よ)もすがら」芭蕉の名句、・・・**訳** 仲秋の名月の今夜、その美しい光の映る草庵の池の周りを回って一晩中名月をながめた。

これを最近の落語ブームである落語風にすると、

父・・・「ター坊、長サオなんか振り回して何をやっているんだ」

ター坊・・・「お父ちゃん、あの月を落とすんだ」

父・・・「そんな所では低くて駄目だ、屋根に登ってやればよい」

それを聞いていた母・・・「さすがお父さん」と言ったそうです。



「名月や あれを落せと せがむ子等」・・・川柳風にすると

「こそ泥(こそこそ泥棒)も ゆるしてもらえる 月の夜」となります。

十五夜の夜、果物等を縁側にお供えして月見をする風習がありました。それをガキドモが暗闇から縁側伝いに四つんばいで近ずき立ち上がり、お供え物を盗み一目散に逃げます。「コラ泥棒」声はしますが捕まりません。こんな形で子供たちに果物を与えた良き時代のことです。

習い方

パロディ型 (よく知られた作品を模し、内容を変えておもしろおかしく作り変える事)。

「夏草や 兵どもが 夢の跡」(芭蕉作)・・・**訳** 兵どもの功名が夢と消えて戦いの跡に、夏草だけが茂っている。幼少のころ「原っぱや ワルガキどもの クソの跡」、最近では「空き地あり 犬の散歩の クソの跡」。

考え方

「川柳(センリュウ)も 蛙飛び付く 川柳(カワヤナギ)」

川柳は考え方を変えることで、蛙も飛び付きますから気楽ですね。

「川柳は季語もいらなきやワビ、サビいらず五、七、五と書けば良し」

只只ひたすらに五、七、五と書くのみ。

<次号につづく>

-
- ・ 川柳といえば、今毎日新聞夕刊で、「脳トレ川柳」を募集しています。
その中から・・・
「めがねどこ 新聞どこだ おまえ誰」「鍛えすぎ 前頭前野 禿げ上がり」
 - ・ サラリーマン川柳で、こんなのがありました
「さからわず いつも笑顔で 従わず」「早くやれ そういうことは 早く言え」
「まだ寝てる 帰ってきたら もう寝てる」「耐えてきた そういう妻に 耐えてきた」
 - ・ それでは、事務局からひとつ・・・「会報を 読まぬ阿呆に 見ぬ阿呆」—— 失礼

【 会員投稿 】

“川柳を創って生活に潤いを”楽しんでいきます

【 その2 】 ペンネーム:川柳創駄郎



過去の作品を列挙します。

「定年や60過ぎりや誰も来る、めでたくもありめでたくもなし」
「宴会も俺が主役の送別会」 「ついに来た休み週休7日制」
「定年後明日があるさ先送り」 「現役も亭主関白今いずこ」
「我が家ではかかあ天下は昔から」 「紅葉も落ちてしまえば枯落葉」
「枯落葉粗大ゴミより軽いかな」
「定年後役割分担命ぜられ」・・・炊事、洗濯、掃き掃除、精を出しすぎて
「ケアチャンがやることないよと家出する」・・・動かなければ
「粗大ゴミ面倒ごめんと家出する」
「ケアチャンが行くところないよともどります」・・・ほどほどに
「昼酒を飲んで暮らせる夢を見た」 「定年後飯は三食昼寝付き」
「妻が留守鬼の居ぬ間のカンビール」 「妻が知る数が減ったよカンビール」
「正月や娘と一緒に孫が来る」
「孫が言うバアチャン髪がなぜ黒い」・・・染めているから
「孫が言うジイチャン髪がなぜ白い」・・・苦労しているから？
「孫帰る残るは妻と二人だけ」 「二人だけ広く感じるウサギ小屋」
「喧嘩する一步後退二歩前進」 「言い合いも黙った方が勝ち目あり」
「一日を無口で暮らすいい男」 「我家にも派閥抗争妻と俺」
「野暮（野党）な顔どちらが与党か余裕（与党）顔」
ニコニコ顔の方が勝ちですね 「喧嘩した供に若いと友は言う」。

リレー川柳

「妻が言う群馬県民バクチ好き」 「バクチ好き小鳥になったか四十雀」
「しじゅうから働き盛りは四十代」 「四十代男盛りの花が咲く」
「花が咲く咲かせて見せたい男意気」 「男意気昔確かに有りました」
「ありました過去にいろいろ色事が」 「色事があったかどうか過去の事」
「過去の事現場仕事で苦労する」 「苦労する重ねた日日が宝なり」

スローライフという言葉が世間で踊っているようです。自分の生活スタイルを考え急がず休まずゆるやかに自分に合ったスピードを選び悠悠と暮らして行こうと言う事でしょう。

「鈍人の俺に似合いのスローライフ」
「携帯（ラジオ）を手に持ち出かけるウォーキング」
「ヘソクリも年金暮らしで底を突く」 「今日も又図書館通いの日日暮らし」
「本を読み辞書をひきひき日が暮れる」 「辞書を引き苦労重ねて漢字知る」 「用達しを歩きで過ごす日和かな」 「金もなし外に出たいがカゴの鳥」
「癒し系俺の希望は巨乳かな」・・・巨乳タレントが多くなったようですね

「巨乳駄目癒しの本命上戸彩」 「菜の花や利根の流れに彩映す」
 金がなくても過ごせる三要素は 「金もなし本読み昼寝ウオーキング」
 「毎日が晴耕雨読もあきが来る」 爆発だ、岡本太郎じゃあるまいし、たまには
 噴火もしてみたい。人間と言う生物はこうゆう時代ですからストレスと言う
 マグマが溜まります、爆発とか噴火する前になにか対策することも人間の知恵
 かもしれません。
 俺流と勝手気侷な生活も妻の一言夢破れたり 「関白も所詮妻のお手の中」。

まとめ

金入る（年金）メシ喰いサケ呑み道楽も、山あり谷あり平野あり年金暮らしの
 日が続く、贅沢しなけりゃなんとかなるさ 収支決算ゼロで良し。
 暴飲暴食を慎み、道楽（パチンコ、カケ事）もほどほどに、平野（平和）に
 行こうとゆうことです。

「指を折り川柳創りに精を出す」 「川柳も似たり寄ったりパクリかな」
 「川柳を創る習慣ボケ防止」・・・うまい！？
 「自画自賛誰も誉めなけりゃ我誉める」 「駄作でも多く創れば良しもある」

追記、ペンネームは川柳を創れども創れども駄作の山です。これを基に
 川柳創駄郎と命名した

川柳に対抗して、事務局から「もじりことわざ」をお届けします。

『ほっとけない！』シリーズ

<元のことわざ>	<もじりことわざ>
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>待てば海路の日和あり</u> いらだたずに待っていれば、 早晩幸運が到来する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>待てば賄賂の効き目あり</u> 口利きひとつで賄賂が入る。その結果議員や 知事がやめるはめに。『ほっとけない！』
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>驕る平家は久しからず</u> 栄華を極めて勝手な振舞いをする 人は長くその身を保てない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>奢る上司はよろしからず</u> 裏金を使って奢る上司。 『ほっとけない！』
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>鯉の滝登り</u> 立身出世のたとえ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>故意の天下り</u> 日本は天下り天国。中には出勤ゼロで年収 1000万円も。『ほっとけない！』
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>六十の手習い</u> 晩学のたとえ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>六十の手洗い</u> 六十を過ぎると手洗いに行く頻度が増えて くる。前立腺肥大か。『ほっとけない！』
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>知らぬが仏</u> 知っていれば腹をたてたり心配 するが、知らなければ仏様のように 穏やかな気持ちでいられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>知ってもほっとけ</u> JR西日本の企業風土？。あの大惨事を知り ながらボーリング大会、宴会とは。 『ほっとけない！』